

もうすぐ区長選

#子育て政策聞いてみた

候補者政策アンケート

区長選挙に際し、待機児童解をはじめとする子育て政策について、ご意見をお聞かせください。

いただいたご回答は、

- 1) 「回答全文」
- 2) 「候補者回答一覧まとめ」

*各項目に目安文字数を記載しています。各回答文頭から目安文字数分を抜粋し、
まとめを作成いたします。

**目安文字数を越える場合は別紙で回答全文を掲載します。

を、当会ウェブサイト (hoikuen-hairitai.com) および SNS (Twitter, Facebook) に掲載し、子育て世代に届けさせていただきます。

平成30年10月23日

みらい子育て全国ネットワーク

希望するみんなが保育園に入れる社会をめざす会

候補者名：

ご本人のご署名いただけますと幸いです。

吉住 健一

1. 待機児童について

新宿区ではH30年4月時点の待機児童数が25名と区から発表されています。しかし、認可外保育施設を利用する人や、特定園のみ希望している人、保護者が求職活動を休止した人の数はこの中に含まれておらず、さらに認可保育園の申込み自体を諦めている保護者も相当数いると言われており、待機児童には未だ多くの課題が残されていると考えられますが、待機児童についてのお考えや、区の待機児童対策についての具体的な提案をお聞かせください。

1-1. 待機児童を解消するためには現状の子育て政策で十分ですか。

はい。十分である。

いいえ。不十分である。

その他：理由をお書き下さい。 _____

1-2. 1-1で不十分もしくはその他と回答いただいた方に質問です。待機児童解消に向けて必要と思われる政策は具体的にどのようなものですか。

(目安文字数：150～200文字程度)

新宿区では、保育を必要とする世帯の状況に応じて利用できる多様な保育施設・事業を整備してきており、平成30年4月1日現在で25名まで待機児童数が減少しましたが、今後も変化し続ける子育てニーズに応じていくために、就学前の児童人口の推移や保育需要を把握しながら、認可保育所等の整備を進めていく必要があると考えています。

2. 保育士の処遇改善、および業務の負担軽減について

保育士は他業種に比べ給与水準が低く、また日々の業務負荷が高いといったことから、資格を保有しているながら保育士として働いていない潜在保育士が多く存在しており、各自治体／保育園では保育士の奪い合いといった状況になっています。

2-1. 保育の質と保育士の確保のために、保育士の処遇（給与や手当など）を改善することについて、考えをお聞かせください。また給与の引き上げを取り組みとして検討される場合は、どの水準まで引き上げるのが適切だとお考えですか。その場合は財源確保についてもお聞かせください。（目安文字数：150～200文字程度）

保育士の処遇改善や業務のICT化を推進し負担軽減を図った事業者には、東京都のキャリアアップ補助などを活用することで財源を確保し、区として支援を行っています。保育士が心身ともに余裕を持ち子どもに向き合う環境を整えることは、子どものより良い成長に重要なことと考えます。新宿区としては、公定価格の設定など制度設計をする国に対し、特別区長会等をとおして引き続き要望をしていきます。

2-2. 使用済みのオムツ持ち帰り問題では、衛生面での問題に加え、保育士がオムツの仕分けをする負担があると言われていています。使用済みオムツ持ち帰り問題について、考えに近いものはどれですか。

園で処理した方が良い

保護者が持ち帰った方が良い

わからない

2-3. 2-2の回答について具体的な考えをお聞かせください。

(目安文字数：40～80文字程度)

現在、保育園等でオムツを処理するとした場合に、誰がどのような負担をするのか、また、使用済みおむつの処理方法について調査・研究しています。幼児教育の無償化や給食の食材料費の取扱いなどの具体的な実施内容も踏まえながら、考えていきます。

2-4. 保育士の労働環境改善について、その他市として取り組みたいことがありましたら

お聞かせください。(目安文字数：80～100文字程度)

区では、国の基準を上回る職員配置を行う認可保育所等に対して、独自に運営費などの補助を行っています。加えて、子ども・子育て支援法に基づく指導検査では、職員の適切な労働環境が確保されているかも確認をしています。

3. 幼児教育無償化について

3-1. 現政権が2017年12月8日に閣議決定した2兆円規模の政策パッケージの中に幼児教育・保育の無償化（約8000億円）が盛り込まれました。この幼児教育・保育の無償化についてあなたの考えに近いものはどれですか？

無償化すべき

無償化よりも全入化

無償化に反対

その他

3-2. 3-1の回答について具体的に考えをお聞かせください。

（目安文字数：100～150文字程度）

新宿区では、これまでも国の基準を引き上げて幼児教育の段階的な無償化に取り組んできました。保育施設の整備や保育士の処遇改善なども含め、すべての子どもが無償で質の高い幼児教育・保育を受けられる環境の整備を進めるべきものと考えます。

4. 学童について

現在、新宿区では学童クラブの他に放課後子どもひろば（放課後子どもひろば・ひろばプラス）があります。定員を超える受け入れが予測される学童クラブの近隣の小学校の放課後子どもひろばでは、通常の利用の他、出欠管理等、学童クラブの一部の機能を付加した「ひろばプラス」を実施しています。しかし、学童クラブと比して職員の資格・配置の基準が異なる、共働き家庭の子供たちが落ち着いて過ごす生活の場がない、館外活動がない、などの違いがあります。

4-1. 学童の定数を超えた受け入れ状況と待機児童解消に向けた施策について伺います。今後の方針についてあなたの考えに近いものはどれですか。

学童クラブの充実を進める

放課後子どもひろばの充実を進める

その他（理由：学童クラブと「ひろばプラス」の双方の充実を進める）

4-2. 4-1の回答について具体的に考えをお聞かせください。

(目安文字数：100～150文字程度)

区では、学童クラブの利用要件のある小学3年生までの児童と障害のある児童は6年生まで定員を超えても受け入れています。学童クラブの定員は、学童クラブ室の面積により設定していますが、登録者数が定員を大きく上回る学童クラブについては、児童館スペースの活用による専用スペースの拡大や、教育委員会との協議により小学校内に新たなスペースを確保するなどの対応をしているところです。「ひろばプラス」の登録状況をみると、学校から児童館内の学童クラブまでの距離がある場合、3年生以下の登録が多く、全体の登録人数も多くなる傾向があります。

このように、放課後の居場所の選択肢を増やすことで、子どもの成長段階や各ご家庭の状況に合わせて、利用していただけたと考えています。

5. その他子育て政策について

1～4の質問以外で、推進されている子育てに関する政策がありましたらお聞かせください。

(目安文字数：100～150文字程度)

新宿区では、自宅で子育てをする家庭も含め、乳幼児・児童の保育事業以外にも、ひとり親家庭への支援や子どもの虐待・貧困への対策など、多方面からの子育て支援策をきめ細かに講じています。今年度実施する次世代育成支援に関する調査の結果も踏まえ、一層の充実を図っていきます。

ご回答ありがとうございました。